

標 題 白未熟粒対策及び機械のメンテナンスについての研修会を開催しました

(ダイジェスト)

大田市管内の水稻生産者に向けて、白未熟粒対策及び機械のメンテナンスについての研修会を開催しました。基本的な知識のほか、機械の自己点検について理解を深め、研修の最後には、今後の品種選定の参考にするため、食味試験を実施しました。

大田市の水稲生産者の所得向上を目的に、収量及び品質向上並びに生産コスト低減のための白未熟粒対策及び機械のメンテナンスについての研修会を令和5年12月14日に開催しました。

はじめに、大田農業部から白未熟粒の発生原因とその対策についてお話ししました。本年度産の水稲はコシヒカリを中心に夏季の高温により収量が低下し、平坦部を中心に白未熟粒による1等米比率が低下したことを受け、水管理や土づくり等の基本的な知識のほか、コシヒカリからの品種転換について説明を行いました。

次に、JA全農島根農機サポートから、生産コスト低減対策として主要機械の自己メンテナンスについてお話いただきました。物価高騰により、機械に係る費用の負担も大きくなっているため、収益性を向上させるためには機械の利用率の向上や使用年数を伸ばすことが重要となります。今回の研修では、生産者が日ごろから簡単に点検できるポイントや機械使用後の自己点検について理解を深める機会となりました。

研修の最後に、コシヒカリからの品種転換を考えるきっかけ作りを目的として、食味試験を行いました。「つきあかり」「コシヒカリ」「きぬむすめ」「つや姫」「にじのきらめき」の5品種の食味の良かった上位2品種に投票してもらいました。投票の結果は1位が「つや姫」で20票、2位が「つきあかり」で18票でした。この結果をもとに、品種転換を考える際の判断材料の1つにしてもらいたいと考えています。

研修終了後に行ったアンケートでは、「気温上昇による現況がよく分かった」「耕種の防除や農薬、ステージごとの水管理などの必要な所が改めて再確認でき良かった」という好意的な意見が多かったことから、来作に向けた対策を考え直す良いきっかけになったと考えます。また、今後開催してほしい研修会について「土壌診断と施肥設計」「農機具のメンテナンス実演会」「病害虫について」などたくさんの要望がありました。特に「カメムシ被害で大幅に等級が下がった」との声があったことから、次年度は田植えを終えた6月頃に病害虫の研修会を開催するなど、今後もサポートしていきます。



研修会の様子



食味試験の様子